

「フィンランドの話」

8年間ほど、フィンランド政府観光局につとめ、フィンランドへ観光旅行に出かけませんかというお話をよくしておりましたので、フィンランドの国について少し知って頂こうと、今日こちらに伺いました。

8月上旬にヘルシンキで、世界陸上が開催されておりましたので、フィンランドと、ヘルシンキという土地の名前は、親しんで頂けるようになったかなとは思っています。今日は、フィンランドの国の全体のご紹介と、それから観光旅行でゆく首都のヘルシンキ、そのあと車いすで旅行した場合にどのくらい旅行がしやすい国なのかと、そのあたりを簡単にご紹介します。フィンランドは、日本から九州を引いたくらいの面積で、首都ヘルシンキは、一番南側。直航便で9時間半。アメリカに行くのとはほぼ同じです。人口は約520万人。首都ヘルシンキの人口は50万人。板橋区ぐらいの規模です。

フィンランドと言うと皆さんどんなことを思い浮かべられますか？よく形容されるのが、「森と湖の国:フィンランド」、非常に森林産業が発達している国でもあります。

フィンランド共和国の大統領が今は女性ですが、非常に歴史が若く1917年の12月6日にロシアから独立しています。ロシアに支配され、スウェーデンに支配されていました。

サウナというのは、おそらく、世界中で一番有名なフィンランド語でしょう。フィンランドはいろんな国に支配されていて、自分たちのアイデンティティーを出すのが難しかったのですが、フィンランド人をあらわす、3つのキーワードがありまして、その頭文字が全部“S”です。

サウナ (SAUNA)

“スオミ (SUOMI)”というのが、フィンランド語での国名ですので、この“S”もひっかけて、とっているのではないかなと思いますが、

この3つの“S”の1つが、この“サウナ”です。



サウナ

サウナは、フィンランド人たちの文化とか、生活習慣だとか、自分たちのアイデンティティーをあらわす、典型的なものです。

写真でご紹介しているサウナは、スモークサウナ、薪で5、6時間ずうっと火を焚いて、火が落ちたころによろやく人間がサウナに入れる状態になるという、非常に贅沢なものです。フィンランドではその昔、家を建てるときはまずサウナからと言われております。なぜかと言うと、サウナを建てる時火が起こせ、水を沸かせ、風呂に入れ、料理ができる。

それと、高温になるので、建物の中が殺菌されていて衛生的であることから、産婆さんがいた時代はサウナで子供を産んでいましたし、人が亡くなる時も最期はここへご遺体を入れて清めてからお葬式をと、そういう神聖な場所としてサウナがあります。

シベリウス (SIBELIUS)

2つ目の“S”は、音楽が好きな方はご存知、シベリウスという作曲家です。彼がなぜこの“S”の中の1つに入っているかと言いますと、彼が生きた時代(1865-1957年)がフィンランドの独立(1917年)前後の頃なのです。フィンランド人がフィンランド人として生きて行

くためには、フィンランドという国として独立しなければ駄目だということを、芸術家たちや、政治家たちが言い出しました。その表現の



シベリウス

1 つが「フィンランディア」という交響曲(交響詩)です。国民たちの気持ちを高める曲を作った人として2 つ目の“S”です。



フィンランディアホール

シス(SISU)

3 つ目の“S”は、「大和魂」と似た、頑張るぞ、とそういう意味で気合を込めるような気持ちのこと。シス(SISU)といいます。このあたりから、フィンランド人のことを、想像していただけるのではないかと思います。

フィンランドには、ユネスコ世界遺産に登録されている場所が5ヶ所あります。その中のひとつが、首都ヘルシンキにあります。フィンランドの福祉の基点としてご紹介したいこの建物は、代表的なスパホテルなのです。

フィンランド主要都市ではほとんどの町にスパホテルがありますが、スパホテルのもとも

との目的というのが、第二次世界大戦の時の傷病兵をどうやってケアをしようかと。それが、スパの基なのですね。いまは障害者の方だとか途中で事故などに会われて、ケアを常にしなければならない方たちが、年に一週間だとか、10日の単位でケアをするホテルとして利用されてもいます。



スパホテル

フィンランド人が、このホテルに来る場合、全部医療とか保健とか国の費用で泊まれ、色々なケアを受けるというそういう施設としても使われているホテルです。もちろん、スパなので、一般の人にとっては、リラックスするためのホテルです。

フィンランドは旅行しやすい国なので、ぜひ行って下さい。空港内で使われている車いすは、こういうタイプの車いすです。



空港内で使われる車いす

一番心配なのが、お手洗いかと思うのですが、次に示しますのが、現在のフィンランドの公共施設の典型的なお手洗いです。

誰でも使えるお手洗いはこういうタイプになっていて、相当広いですので車いすごとお部屋に入ることが必ず出来ます。



公共施設の広いトイレ

介護の方と一緒に入れますね。後ろ側は、こういうふうにあいているのが、フィンラン

ドのトイレの特徴になっていると聞きました。洗面台も高さを変えられるようになっていますね。

もちろん全部税金が投入されていますが、日本だと多分宝くじ協会にあたるのだと思うのですが、フィンランドですと、スロットマシンがそこいら中にあり、このスロットマシンの売上金は、全部、色々なタイプの福祉の方に使われております。

世界陸上のヘルシンキでのマラソンを御覧になって、町並みが石畳で動きづらいのではないかと思われたと思うのですが、確かにほとんどの街は石畳のままですね。街を歩くと、それでも結構、電動車いすの方を見かけますよ。お独りで、実に快適に動いてらっしゃいます。段差のないところが必ずどこかに作ってあるので、車いすの場合、ちょっとガタガタはすると思いますが問題はありません。

私も3ヶ月ほど、日本から同行しました電動車いすの方と向こうで一緒に生活をしましたが、全然支障はなく、日本よりも動きやすいと、その方もおっしゃっていました。建物は、必ずどこか一箇所は、車いすで何の障害もなく入れるように作らなければいけないと法律でなっています。博物館のように、建造物を保存することが義務づけられている建物の場合は、ちょっと困難な場合もあるんですが、ほとんどの場合は、スロープが必ずどこかについていてアプローチ(入ること)もかなり楽です。

どうしても、車いすで直接アプローチができない場合でも、フィンランド人は非常によくできてまして、乳母車を引いているお母様に対してもそうですけど、すうーと誰かが寄ってきて、簡単に手伝ってくれるのですね。

“パンクみたいな格好のお兄ちゃん”が平気で寄ってきて手伝ってくれて、しかも体が大きいので、まかせてしまって大丈夫です。バギーを引いたままでも、乳母車を持ったままでも、バスやトラム(路面電車)に直接乗っていいので、そういう場合は、必ず誰かが手伝うという習慣がついています。ですから、皆

さんも安心して旅行して頂けると思います。

私のような健常者でもスーツケースをゴロゴロしていくと、日本は本当に階段が多くて駅など大変で、フィンランドの方がはるかに楽です。ホテルも必ず1、2部屋は、車いす専用のお部屋が用意してありますので、そのあたりもご安心して出かけていただけるかなというふうに思います。

フィンランドのポリオの会についてですが、フィンランドにも、全国規模のポリオの会がございまして、ホームページを見ましたら、(<http://www.polioliitto.com/>)ちょうど、今年50周年を迎えて(ソークのポリオワクチン成功から)、記念の講演会など沢山アレンジされているようでした。しかし、普段の活動は、たった人口520万人の国民が皆さん、色々な所に散って住んでいるので、例会というのはなかなか出来ていないようです。何をやっているかと言うと、長期の夏休みの期間に——フィンランド人は6週間から8週間まとめて夏休みをとります——その時に、ポリオの会で、色々な講習会とかリハビリを実施します。皆さんだんだん状態が少しずつ悪くなっていきますから、その中でQOLをどういう風に維持していくかということ、一回々講習して行く必要があるという考え方から、1週間から10日、2週間の単位で、どうやって自分たちの生活能力を維持していくか、どうすれば向上させていくことが出来るのかという講習会をアレンジして、合宿のように集まって来る、そういうことをされていました。

それから、もちろんお医者様の講演会なども組まれていたり、色々な助成金を受けるためにどうすればいいのかというようなことの窓口、そんな活動をしているようでした。

あと10分ほど、私の話す時間が残っていますので、フィンランドにお出かけになったら、ぜひ味わってみて下さいというものをご紹介します。

マラソンのスタート地点の真横にあった建物、マーケットホールというところで、内はお店がところせましとならんでおりまして、美味

しいパンを食べたい時は、ここで買って下さい。これがマーケットスクエアの屋外の青果売り場です。どうして、このサヤエンドウというかグリーンピースをこんなに大映しにしているかといいますと、これみんな生で食べる。



生のサヤエンドウ

袋に入れてもらって、買ったならそのまますぐ、生で食べる、筋をこうビビビビーと取って中のグリーンピースを生で食べるとちょっと苦い、その苦が甘さがなんとも言えず。



オープンマーケット

それで、食べたならサヤはどうするかといいますと、その辺にポットとゴミ箱なんかないのでそのまま落とすと、このマーケットスクエアが

閉店時間になると、お掃除隊がやって来てきれいに掃除して行きますので、閉店直前はサヤエンドウのサヤがいかに多いかという状態になりますね。

それから、パンですが、フィンランドの場合はフランスのようにお洒落な国ではないので——フランスの大統領がフィンランドは食事がまずいと言っていましたけど——パンは、絶品です。ライ麦パンは、非常に重たい感じのパンで、日本ではなかなかないですけども、非常に美味しい。ちょっとすっぱいかなと思われと思いますが、ぜひ食べてみてください。



ライ麦パン

ちなみに、穴が開いているのですけど、パンを保存食として保存するために、その昔、家の部屋の中に竿を渡して、そこに穴を通して並べておいて、冬の間も乾燥させる。パンも一種の保存食として食べた名残としていまだに穴が残っています。

もう一つ、アイスクリーム。乳製品は非常に美味しいので、ヨーグルトとか、アイスクリームとかもぜひ食べてきて下さい。

オーロラは夜空が暗くないと見られません。夏に行くと、夜中の12時ぐらいまで明るいので、オーロラが出ていても見られません。オーロラをご覧になりたい場合は、10月以降3月ぐらいまでです。見られる場所はラップランドで、お勧めの時期は11月から3月ですが、10月ぐらいにいらっしやると、紅葉とオーロラと両方みられます。



オーロラ

フィンランドへの留学ですけれども、福祉もいいですがフィンランドの場合は教育費がゼロというか、国が全部負担してくれています。そういう意味では、費用の面では、北欧はどちらにいらしても同じかなというふうに思いますね。学費がアメリカなどではすごい額を払わなければいけないと思いますが、授業料は、国公立の学校しかありませんのでかかりません。留学生でも無料ですが、これは現在、有料化が検討されています。

産業は、もちろん、どんどん時代によって、産業構造は変わってきていますけれども、その昔は森林産業、ペーパーパルプ。日本の女性の高級雑誌などの用紙は、ほとんど全てフィンランド製です。そういう時代を超えて、バブル崩壊のあたりから、皆さん、携帯電話のノキア(NOKIA)をご存知ですか？



あれは、フィンランドのメーカです。現在はそういう情報工学、システム開発、機械工業という分野へ移行してきています。サービス産業だとか、コンピュータ関係の開発だとか、いわゆる、ハイテク技術開発部門です。フィンランドで技術を開発して技術を販売するというようになってきていると思います。

フィンランドを専門とする旅行会社が日本には2ヶ所ほどありますので、下記のインターネットで調べてください。

- 1) フィンツアー (<http://www.nordic.co.jp/>)
- 2) ホライズン (<http://www.aht.co.jp/>)

このあたりで、私のお話は終わりにいたします。どうもありがとうございました。(拍手)。

< 質疑応答 >

質問： フィンランドは 20 年前に一度だけ訪れたことのある国です。 その後も毎年ヨーロッパには行きましたが、フィンランドへは絶対にもう一度行ってみたいと思っています。 私がフィンランドを訪れたのは、フィンランドの誇る大作曲家シベリウスの生家を訪れ彼の軌跡を調べる目的でした。 ヘルシンキではフィンランディアホールやその向い側にあった(と思う)歴史博物館が素晴らしかった。 このフィンランディアホールは偶然、建築学専門の夫が最も好きな建築家アアルトの作品でした。 テンペリアウキオ教会という岩をくり抜いたユーフォーのような教会も面白かったです。 シベリウスの生家のあるヘメンリナを訪れる列車の中で英語の上手な高校生と知り合い(当時のフィンランドはほとんど英語が通じなかった)何と彼女の家に泊めて戴いたのです。 とても素敵な家でした。 ヘメンリナでは、彼女のお薦めでヘメンリナ城とイッタラ(iittala)の本社工場に行きましたが、当時私はイッタラを知らなかったので、帰国後、伊勢丹の高級ガラス食器売り場で、10 倍の値段で売られていた製品を見てビックリ！ もっとたくさん買ってあげれば良かった。 その後、タンペレという町へ行き、将来の夫の薦めで近郊のニュータウンを見学してきました。 最後はトゥルクからシリアライン(客船)に乗って一泊、スウェーデンのストックホルムに移動、という 5 日間だけのフィンランド滞在でした。

- 1) ヤルヴェンパーはシベリウスが晩年まで過ごした場所ですが、資料館のようなものがあるのですか？
- 2) 行く前にフィンランド観光局で教えて戴いたヘルシンキのレストラン「Perho」は美味しかった！ 確か料理学校の生徒達が実習の場として経営しているというレストランで値段はとてもリーズナブルでした。 このお店はまだあるかご存知ですか？

回答：

- 1) ここは、現在、AINOLA(アイノラ)という名称で、夏季のみ公開されています。 資

料館ではなく、博物館のため、ガイドさんに案内していただきながら、ここでの生活の様子などを知ることが主な目的になるでしょう。 資料館は、残念ながらありませんが、古都トゥルクに「シベリウス博物館」というところがあり、(シベリウスとは、実は関係のない土地ですが)ここに楽譜のオリジナルや、シベリウスが使った楽器などが収められています。 また、生家(ハメーンリナという町にあります)も保存されていて、子どもの頃のことであれば、こちらが良いと思います。

2年ほど前に、シベリウスの生涯が映画化され、今は DVD で入手可能になっています。 国内では賛否両論ありますが、シベリウスの人柄などを知るには良い映画です。 また、やはり 2 年ほど前に、シベリウスの奥様、AINO(アイノ)とシベリウスとの書簡などがまとめられた本も出版されています。これはフィンランド語です。

2) ヘルシンキのレストラン「Perho」？

フィンランドには、レストラン・ホテル高等職業専門学校の生徒たちが経営するレストランが、学校のある土地にはあるようですが、残念ながらこのレストランの存在はわかりません。 ヘルシンキのガイドブックにも、その名前が見当たらないので、名称を変更しているか、あるいは、なくなっているのではないかと思います。

フィンランドは、比較的、町の変化はゆっくりなのですが、お店の変化はひじょうに激しく、よほど経営が巧く行っているところでない限り、2 年もすれば、なくなっているというのが実情です。

(完)

